



申7号

2023年度年末手当に関する申し入れ

年間6ヶ月以上の年末手当を求めろ！

第1回団体交渉を行う！①

組合

JR東労組は安全第一に魅力の持てる職場の構築をめざし取り組みをつくり出している。各種施策や諸課題の解決に向け職場議論を積みあげている。職場現実を踏まえ、真正面から建設的な議論を行い、健全な労使関係の構築と経営基盤を確立し、会社の発展と労働条件の向上に向け、労使議論を積み上げてきている。組合員・社員の日々のたゆまぬ努力が結実し、昨年と比べて業績の大幅回復を実現した！労働と生活の実感や実態は年々厳しさを増し「コロナ禍前以上」との悲痛な声もあげられている。この年末手当交渉は注目度も期待度も高いことを労使で強く認識し、交渉を精力的におこなっていくことを冒頭求める！

好調な業績

- 2024年3月期第2四半期決算は、連結決算 増収増益。全てのセグメントが増収増益。単体決算においても営業収益対前年比116.7%、営業利益対前年比283.7%、四半期純利益前年比310.6%と**大幅に回復**している。
- お盆期間中の新幹線・在来線のご利用状況(主要16区間計)前年比147%、**運輸収入はコロナ禍前と比べて約90%の水準**。損益の大きなポイントとなる新幹線輸送も好調に推移している。
- 鉄道事業におけるオペレーションコスト削減の取り組みも地道に積み重ね、2019年度比1000億円削減目標も現時点で達成できる見通し。
- キーワードの一つ「インバウンド」、運輸事業の中のインバウンド収入は9月時点で141億円。駅や車内に留まらずインバウンド対応を強化し収益に繋げてきた。9月の訪日外客数は200万人を超え、回復率は大幅に上回っている。

社会情勢

- 10月の月例経済報告では、国内景気は「緩やかに回復している」判断を維持。企業の業況判断は「総じてみれば緩やかに改善している」と上方修正。
- 8月の毎月勤労統計調査(確報)は、一人当たりの賃金は物価を考慮した実質で前年同月比2.8%減少で、17カ月連続のマイナス。約1年半、物価高による生活苦に陥っている状況。
- 9月の消費者物価指数では、依然として食品の値上がりが顕著で、生鮮食品を除く食料は前年同月比8.8%上昇と高止まり。「経済・物価情勢の展望」でも24年度は2.8%の上昇率となっている。

生活実態

- 23春闘で3年ぶりのベースアップが実施されたが、要求とは大きく乖離した回答、夏季手当も2.5カ月+5万円。**実質賃金が大きく目減りしているだけでなく、定期昇給カットにより生涯賃金も減額された状態**だ。

期末手当が生活給になっている現実もある中、期末手当がコロナ禍前より低額支給という現実、期末手当においても歴史的な物価高も踏まえた労使交渉を積み上げてきた経過も踏まえ、物価上昇に賃金が追いつかず生活苦が続く、生活が向上していない実感と実態を直視し、それに応えることは会社の責務と考える！